



第1回

三河一向一揆 本証寺

(愛知県安城市野寺町野寺 26)

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回から友の会だよりも私が行って来た一向一揆ゆかりの地について紹介していきたいと思えます。その場所を訪れて思ったことや、その歴史などを調べて会員の皆様とともに勉強していきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

はじめて紹介するのは、今年のNHK大河ドラマ「どうする家康」で注目されている本証寺ほんしょうじです。今（3月初め）ちょうど三河一向一揆の抗争の最中で本証寺が登場しています。三河一向一揆は三河武士が家康方と一揆方に分かれて戦った内乱でもあったので、ドラマの中では一揆方に味



本証寺本堂

方した武士は槍を持って戦っていますが、一揆方の多くは鎌や鍬、竹槍を持って家康軍に立ち向かうという江戸時代の百姓一揆のイメージが一向一揆に対してもまだまだ根強いと感じました。

さて、大河ドラマ放映に合わせて安城市歴史博物館にて「特別展 家康と一向一揆」展（令和5年2月4日～3月19日）が開催されたので、その観覧を兼ねて本証寺を訪ねました。

本証寺は鎌倉時代後期に創建され、戦国時代には岡崎市の上宮寺・勝鬘寺とともに三河三か寺と呼ばれる一向宗の有力寺院でした。永禄6年(1563)三河一向一揆の始まりは、松平家康の家臣が本証寺領の不入権を侵したことが発端だったという説があり、大河ドラマではそう描かれています。翌年2月に戦いが終結すると三河三か寺をはじめとする一向宗寺院は三河から国外追放されて禁教となり、天正13年(1585)にようやく赦免されて戻ることができました。本証寺境内は平成27年3月10日に国史跡に指定され、他にも建造物、絵画、彫刻など数多くの指定文化財を有しています。建造物で最も古いのは寛文3年(1663)頃とされる本堂で、内堀に面して写真映えする鼓楼(宝暦10年・1760)も江戸中期の建立とされています。江戸時代に境内地や堂宇の復興再建が進められ、明治初めに外堀の大半が埋め立てられたものの現在でも寺内町の様相を残しています。本証寺墓地の周辺に残る内堀・外堀の二重の空堀は、後世の改変で浅く幅広くなったものの戦国の雰囲気を感じられる心躍る遺構でした。有志により内堀に植えられたという蓮が見頃になったら、もう一度訪れてみたいと思う場所でした。

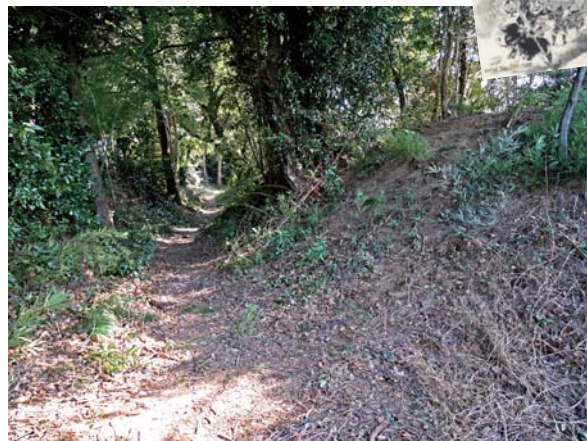
参考文献

「よみがえる本証寺伽藍」(安城市歴史博物館・2012年)

「特別展 家康と一向一揆」図録(安城市歴史博物館・2023年)



修復された鼓楼と蓮が植えられた内堀



境内地に残る外堀と土塁



本証寺にて
令和5年1月から
500組限定で
販売された御城印
(2枚1組)